

大学運営会議議事録		
開催日 及び場所	令和4年11月10日(木) 午後2時00分から午後2時44分まで 特別会議室 Web (ZOOM) 会議同時実施	
出欠状況	出席:33名 欠席:5名	
<p>1 報告事項</p> <p>(1) THE 世界大学ランキング 2023 (世界版) の結果について</p> <p>(2) 令和5年3月卒業予定者の進路(就職・進学)状況について</p> <p style="margin-left: 20px;">①静岡県立大学</p> <p style="margin-left: 20px;">②静岡県立大学短期大学部</p> <p>(3) 教員データベースへの researchmap の URL 掲載について</p> <p>(4) 第9回 障害学生支援 講演会の開催について</p>		

- ・ 前回議事録(案)の確認

令和4年10月の大学運営会議議事録(案)について、案のとおり承認された。

1 報告事項

- (1) THE 世界大学ランキング 2023 (世界版) の結果について

THE 世界大学ランキング 2023 (世界版) にエントリーし、世界 104 か国、1799 大学がランクインした。

本学は、昨年「1201+」のカテゴリーだったが、本年は「1501+」にランクインした。昨年は、1201 以下を「1201+」としていたが、ランクインする大学が増え、1501 から 1799 までの、約 300 校が入るカテゴリーが新設された。日本からは 117 校がランクインし、本学は、日本の中で 75 位タイとなった。昨年は 43 位タイで、ランクダウンしたようにも見えるが、カテゴリー (ランクイン大学) が増えたことに伴い、「順位タイ」の数も増え、連動して順位に影響しているもの。

詳細については、資料を基に各自の立場から観察し、自身で調査いただければと思う。

今回のランキングに使用された情報は直近の内容ではなく、2019 年 (令和元年) 度の情報である。本情報について国際交流室で調べたところ、2019 年度は博士課程の卒業生を考えると、通常では 2020 年 3 月卒業生になるが、その他の 2019 年 9 月卒業生、論文博士の秋季卒業生も含めた数となっている。

ランキングでは、前年と同じ指標 (5 分野 13 指標) としており、「教育」「研究」「被引用論文」「産業界からの収入」「国際性」で、各大学を評価している。本学の分野ごとのスコアランキングは表に記載のとおり。世界版と日本版では、ランキング評価内容が大分異なっている。

特に教育で異なっている部分として、世界ランキングでは「博士課程で学位をどれだけ与えられたか」の影響が大きい。

ウェイト別で見ると、大きくは「教育」30%、「研究」30%、「被引用論文」30%となっており、これら3つが大きなウェイトを占めている。「教育」においては、博士課程の内容が高く

評価されるという仕組みになっており、それらを踏まえると 2019 年度の博士課程の修了者数は 20 名だったが 2018 年度の修了者は 39 名であり、今回の対象情報となる 2019 年度から見ると半減していることが分かり、この影響を受けたと考えられる。また「被引用論文数」という定義については不透明な部分がある。「産業界からの収入」という「産業界」という部分についても、科学研究費などの国からの収入といった外部資金も全て含まれており、中国を例にとると、中国の国からの収入や浙江省からの地方行政単位からの収入も多額であり、それらが高く評価されている。

各大学のデータは参考資料のとおり。本学のスコアにおいては「教育」「被引用論文」については 2022 年から 2023 年にかけて下がり、「研究」「産業界からの収入」「国際性」は上がった。「評判調査」は THE (Times Higher Education) の方でも独自に調査を行い、研究者を対象に評判調査を実施しているとのこと。「被引用論文」については、THE がエルゼビア社のスコープスというデータベースを使い、論文数や論文引用回数を独自に算出している。しかし算出方法を含め不明な点が非常に多いと感じる。

大学の立ち位置を象徴的に表しているものとして「箱ひげ図」がある。本学は 1500 から 1799 の間にいるが、分析の結果、ランクインされるギリギリのラインではないことが分かった。

本資料を御覧いただき分析することで、今後の大学運営に有益な情報が得られると思う。

<質疑応答>

・「教育」の「評判調査」について、「教育」30%中 15%と半分を占めており、以前の説明の中では「企業、その他人事関係者」から得た情報による結果と記憶しているが、今回もそのようなイメージ調査が占めているのか。また「研究」における「評判調査」についても、30%中 18%でかなりの比率を占めているが、これは誰が評価するものを基にして出てきた数字なのか。(構成員)

・根拠のはっきりしない調査である恐れはある。先生方のところにもアンケートのような形で調査があるかもしれない。THE からのアンケートを受けたことがないのではっきりしたことは言えないが、似たようなアンケートの聞き方として、例えば「世界でこの分野で 1 番の大学から 3 番目の大学まで、3 校挙げてください」とあった場合には、明らかにアメリカやイギリスが有利であるということ。「研究」「教育」どちらにしてもそのような聞き方をしていると思うが、実際のところは分からない。しかし THE も評判に関しては、英語圏であるアメリカやイギリスが有利であるということは認めている。(説明者)

・ランキングをやるからには、評価スケールというものは客観的な指標でやっていくべきで、イメージ的なものは排除すべきではないか。例えば、このような THE 以外で、他にももう少し透明性のある評価機関はないのかということ。また、大学ランキングを行う機関を評価する第三者機関のようなものはないのか。(構成員)

・本調査を行っているのはあくまでも任意団体であり、周りが賛同して参加しているというもの。目的としては順位を上げるということより、ランキングに表示されることの方が大きいかもしれない。(説明者)

・本ランキングを参考にする者は誰なのか。(構成員)

・留学生が参考にする資料という認識であり、ここにランキングとして出るということは大事だと思う。ランキングに載ることで本学のホームページを御覧いただき、留学生向けに訴

える力があるものを作る方が現実的で良いと感じる。よってランク外にはならない方が良い
とは思う。(説明者)

・留学生が留学をしたいがどのような方法があるかなど、学長に直接メールを送る学生もい
るが、その他の方法としてランキングを見ている学生はよくいる。バングラデシュではその
ような学生が多く、積極的に海外を開発し、ランキングに載っている大学に自分の書類を送
るなど、一生懸命やっている方々がいる。(議長)

・先日 FD 意見交換会を実施し、「なぜ本学の研究科を選んだのか」という問いに対し、「入学
前に世界大学ランキングで静岡県立大学を見つけた」という回答をした学生がいた。本学を
受験する大学院生の中にも、このランキングによって志望校を決めている方もいるとい
うことを考えていただければと思う。(構成員)

・ランキングに載ることが一種の保証にはなっており、それだけに頼ることはないが、ラ
ンキングに入っているかどうかというのは保証になるということ。世界には様々なランキン
グがあるからこそ、これだけを見るということではなくいろいろ見る必要があるのかもし
れない。日本の新聞社も学長にアンケートを取り、いろいろなことをやっているもので、世
中にはいろいろなランキングや資料が出ている。折に触れて、留学先を開拓するときには、
本ランキングを使えると良いと思う。(議長)

・博士課程の学生数について 2019 年度は減少したが、翌年度の 2020 年度には戻っており、
下降が続くということはないと思うので、ここで併せて報告する。(説明者)

・珍しい話ではあるが、博士課程の人数が少ないから良い教育が受けられるかもしれないと
いう学生もおり、そのような選び方をする学生もいるということ。(議長)

(2) 令和 5 年 3 月卒業予定者の進路(就職・進学)状況について

① 静岡県立大学

本報告は「今年度卒業予定の学生」が現時点でどのぐらい進路決定しているかを、中間集計
したものを報告する。

各学部研究科の状況は表に記載のとおり。

今年度は昨年度と比較すると進路把握率が上がっている。進路決定者が多いように見える
が、実際には昨年度が進路決定の届け出が少なかったため、今年度は積極的に学生へアプ
ローチし、就職内定次第届け出てもらおうよう働きかけたことから、進路把握率が高まった
ものである。この報告は届け出の状況を基にしたデータのため、「未決定」「未報告」の区
別がつかず、提出されていないものは「未把握」としていることから、各学部の先生方
においては学生の進路が決定次第報告いただくよう御指導いただきたい。

本学の求人件数の推移について、「キャリアス」というネットから求人情報を提供いただく
システムを導入した令和元年度から求人件数は増えた。令和 2 年度以降の「キャリアス」
求人件数は変わっていないが、今年度卒業向けに関しては求人件数が非常に増えている。
これはコロナ感染症が落ち着き、企業側の採用活動が活発になったことが要因と思われ
る。静岡県立大学のコロナ禍における就職状況は大きな影響を受けなかったが、今年
度卒業向けに関しては全体的にさらに良くなってきているという印象である。

キャリア支援センターでの取組状況は記載のとおり。

コロナ禍の影響を受け企業側ではオンライン利用が増え、最近では直ちにエントリーする

のではなく学生側が情報を登録し、その情報（学生）に対して企業側が募集をかけていくエージェントの仲介型就職支援なども増えている。就職活動の方法は多様化しており、キャリア支援センターとしては引き続き学生へ積極的に情報提供をしていきたい。

② 静岡県立大学短期大学部

歯科衛生学科については、県内の歯科医院を中心に就職が決まっている。コロナ禍への懸念もあり9月から12月の臨地実習を考慮し先生方が早期就職活動を呼びかけた結果、昨年よりも順調に内定が得られている。

社会福祉学科社会福祉専攻は介護職員生活支援員として、主に福祉施設への就職を希望する学生が多い。

社会福祉学科介護福祉専攻は介護福祉士、介護職員として就職を検討している学生が多い。

こども学科については幼稚園教諭、保育士として半数以上の学生の就職先が決まっている。

今年の特徴としては公務員の合格が顕著で、11月1日現在で31名の就職希望者のうち14名が公務員に合格した。

求人件数の状況については昨年同期と比較するとやや減少している。原因は明確ではないが、県外の施設や事業所からの求人が減っているという印象がある。また、紙媒体から電子媒体への移行による減少もあると考えている。しかし、短期大学部の学生への就職活動に影響を受けるほどの減少ではない。

進学については現時点で7名の希望者がいる。

卒業予定者に対するキャリア支援センターの取組、今後の対応については資料のとおり。

(3) 教員データベースへの researchmap の URL 掲載について

教員データベースへの researchmap の URL 掲載について、本年1月7日付け、広報委員長名で依頼メールを各教員宛てに発出した。当初は昨年度末までの入力を依頼したが、進捗状況が思わしくなかったことから広報スタッフや委員の働きかけを行い、掲載率は上がった。

教員データベースへの researchmap の URL 掲載については昨年度の大学運営会議で承認され、researchmap は科学研究費の申請の際にデータが参照されるということもあり、全教員の掲載を目指している。

資料掲載は11月7日時点の情報であるが、11月9日時点では看護学部の掲載率が54.5%、全体掲載率が62%となった。

登録はあるが氏名のみ、所属情報が古いもの等については未カウントとしていることから、情報を更新いただくとともに教員データベースへの researchmap の URL 掲載をお願いしたい。

(4) 第9回 障害学生支援 講演会の開催について

これまでの講演会は「発達障害」や「メンタル」の内容が多かったが、今回は「聴覚障害」にスポットを当てた。

演者は静岡県聴覚障害者協会の理事・事務局長の小倉健太郎先生。同氏は、本学の全学共通科目「ヒューマンケア」でも講演いただいている。講演方法はオンデマンドで12月5日から18日までの視聴期間としている。案内は事前に教職員と学生にメールを送付するので、多くの方に御視聴いただきたい。